

◇高齢者施設における日常生活行動への支援強化

- ・リハビリによりその人の目指す暮らしを支援者が一緒に考えることができる
- ・均一なリハビリが提供できるようにリハビリ専門職のバランスの良い全体のスキルアップが必要

取り組み内容

- セラピスト連絡会において連携方法の協議を行います
- 急性期医療機関から回復期医療機関・病棟への連携を進めるための事例検討会等を開催します
- 入退院時の訪問リハへの連携をすすめます
- 『入院時情報提供シート』や『退院に向けたヒアリングシート』を参考に、入退院時の情報連携に努めます（丹後地域におけるケア移行の手引き参照）

\*参考資料 『丹後地域におけるケア移行の手引き』



<入院時情報提供シート>

担当ケアマネジャーから入院先医療機関に対し、これまでの暮らしや在宅での支援状況等を記載し、提出するものです。入院中あるいは退院を見据えた支援に活かせる情報が記載されています。

<退院に向けたヒアリングシート>

この様式を参考に、退院後の生活に向けてケアプランを立案するため、担当ケアマネジャーが情報収集します。この内容に沿って病院側から情報提供があると、スムーズな連携につながります。

『リハビリの視点』で必要な情報も含まれています。

退院前訪問指導では、退院後の在宅での生活に向けて住宅改修や福祉用具の導入等、環境調整や介助方法をお家で確認し、本人・家族・在宅チームで一緒に考え、指導します。



## アセスメント2

### ■市町の健康づくり事業や介護予防事業にリハビリ専門職が十分に参画できていない

◇市町の地域ケア会議、事例検討などを通してテーマを持ちながら協働することで  
つながりの機会とする

◇介護予防や健康づくり部門ではフレイル予防など予防的な取組にも参画が必要

#### 取り組み内容

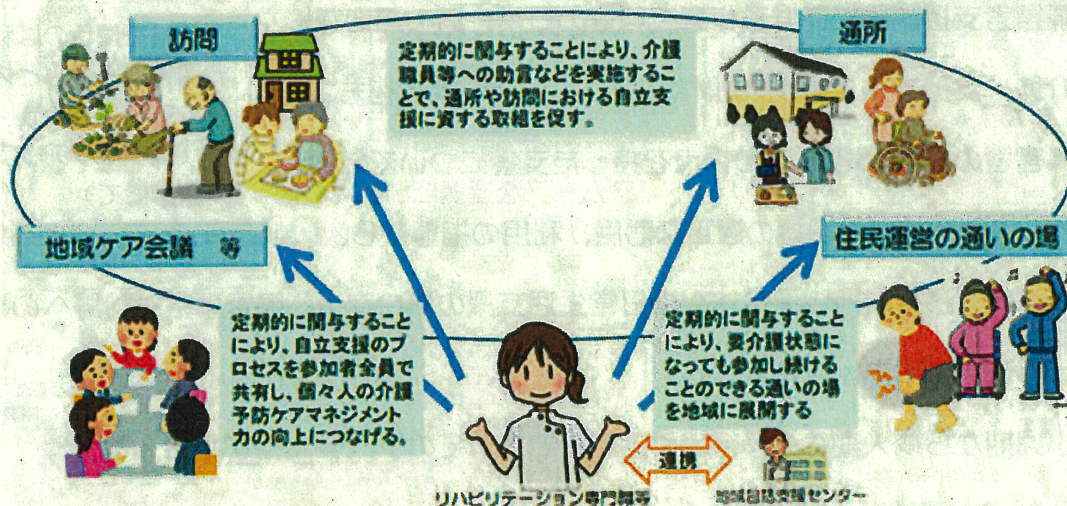
- 地域ケア会議に参画します
- 短期集中予防サービス、生活支援体制整備事業との連携をすすめます
- 健康づくり・介護予防事業でのフレイル予防活動に参画します

軽度の方には市町事業などの場につなぎ、リハ専門職が参画、助言する形が良い

リハビリテーションは「どう生きるかテーション」である

### 地域リハビリテーション活動支援事業の概要

○地域における介護予防の取組を機能強化するために、通所、訪問、地域ケア会議、サービス担当者会議、住民運営の通いの場等へのリハビリテーション専門職等の関与を促進する。



リハビリテーション専門職等は、通所、訪問、地域ケア会議、サービス担当者会議、住民運営の通いの場等の介護予防の取組を地域包括支援センターと連携しながら総合的に支援する。